

立教大学と聖路加看護大学の 学部間学生交流の開始に寄せて

聖路加看護大学 教務部主任 及川 郁子

聖路加看護大学は、1920年に創立した聖路加国際病院付属高等看護婦学校を母体とし、キリスト教精神に基づいて看護学教育を行っている看護学部看護学科の単科大学です。創立以来、看護専門指導者の育成と、看護教育・研究を通して保健・医療の分野に広く貢献することを目指して発展してきましたが、学生数は4学年合わせて300名、大学院を含めても350名という小さな大学です。小さい大学であることは、学生間や学生と教員の交流が盛んであること、少人数教育を行いやすいなど利点もありますが、おのずと教員数や開講科目に限りが生じ、特に教養科目については課題となっておりました。

本学は人間を対象とした看護実践科学を学ぶ場であり、知性と感性の豊かな人材を育成するという本学の教育理念からも、幅広く教養教育を行うことが求められております。そのような折、立教大学との学部間交流のお話があったのは2年前（2000年2月）でした。同じ聖公会を母体とする立教大学の学生や教員の方々と本学の学生が交流で

きることは、多面的な視野から学びを深めるだけでなく、人間性や社会性の涵養からも非常に有意義な機会を与えられたと思っております。

その後、具体的に話を進めていく過程で、全学共通カリキュラム（総合A・B）より受講させていただくことになりました。また、本来であれば本学に立教大学の学生を迎えなければならぬのですが、小規模大学の難しさから初年度は本学の学生のみ立教大学で受講することとしました。

今年度は最初の試みです。どのくらいの学生が受講するかまったく未知の中で、とりあえず1年生に週1日（火曜日）立教大学受講日を設けるように時間割を作成しました。その結果は、前期24名、後期5名の学生が履修登録を行い、火曜日に開講されている科目の中から1人平均2科目くらいを受講しています。総合Aの環境・人間の科目がやはり人気があったようですが、全体的に広く履修しています。

学生の声を少し紹介しますと

・聖路加とは比較にならないほどの学生数で、教室も大きく（ちなみ

に本学の教室は大きくとも 100 名
教室です) 普通の大学生っぽさを
味わえた

- ・看護にも役立つ講義を取れてよかつた
- ・聖路加にない科目を取れてよかつた
- ・受講できる科目の種類がもう少しあるとよい

などの意見がみられ、おおよそ満足
のようでした。また図書館や学生食堂
(利用率が高い)も利用しており、学
生は施設の大きさと充実さに感動し
たようでした。1年生に入学してすぐ
の受講でしたが、導入としては適切
な状況であったように思われます。

開始したばかりですが、今後でき
るだけ早くに受講できる時間枠や学
年枠を広げ、学生の要望に応じてい
くことができるとは思います。授業
内交流だけでなく、クラブやサークル
活動での交流も進むことを期待して
います。また、4年生頃に共通のテーマ
でゼミナールなどをもつ機会が得られ
ればと思います。医療の現場は高度・
複雑化している一方で、QOL や生命倫
理などの諸問題に学際的な対応が求
められています。また本学学生は卒
業後、病院だけではなく学校(養護教
諭として)や企業(産業保健婦として)
においても種々の健康問題に取り組
んでいます。学生時代より学問分野
を越えた学際的な協働作業の機会
が得られ、お互いを理解することが
できればと考えます。

前述したように、本学に立教大学の
学生を受け入れていくことが難しい
ため、2002年度より本学教員が全
学共通カリキュラムの中で、「人間と
看護」というテーマで開講させてい
ただくことになりました。健康や看護
を考えていく中で、また新たな交流
の輪が広がっていくことを期待して
います。

最後になりましたが、この学部間交
流を進めるにあたり、立教大学の方
々には多くのご便宜を図っていただき
ました。ここにあらためて感謝申し
上げます。